

SHIRAKOBATO

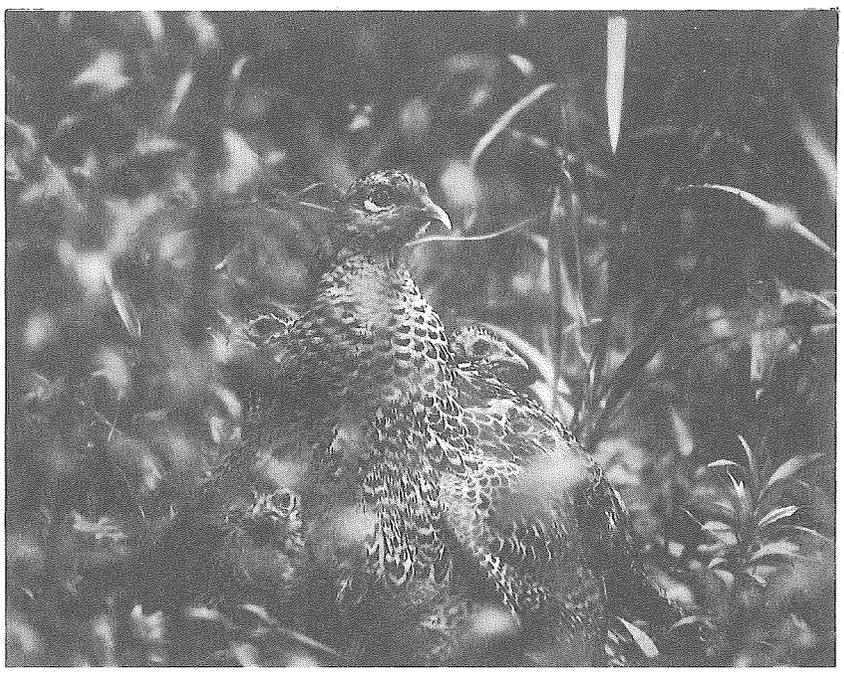
しらこぼと



1994. 7

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 123

日本野鳥の会 埼玉県支部

日本の屋根でバードウォッチング

(神奈川県 小林みどり)

梅雨雲のあいだから青空がのぞき、傘のしずくが太陽にまぶしくきらめく時。太平洋高気圧のパワーを感じた瞬間、私の心は舞い上がります。今年は何の山に登ろうかな、今年もライチョウに会えるかな…。いよいよ夏山シーズン開幕。ときめきの季節の始まりです。

実を言うと、**高い山**（亜高山帯～高山帯）で見られる鳥の種類は、ごく限られています。しかも、このうちの大部分は、秋から冬には平地に移動する漂鳥です。こちらからわざわざ登っていかなくても、待っていれば向こうから降りてきてくれるのです。高い山でしか見られない鳥はライチョウ、それにホシガラス（注1）ぐらいではないでしょうか。

それでもなぜか、夏になると高い山へ行きたくくなります。高い山でのバードウォッチングには、他では味わえない何かがあるのです。それは、山という自然が持つ魅力そのもの、ではないでしょうか。広葉樹林から針葉樹林へ、ハイマツ帯へと移り変わる風景。山肌に幾何学模様を描く残雪。山頂からの大展望。高山植物咲き乱れるお花畑。その中で生活する鳥たちも含めた山の自然全体が、毎年のように私を手招きするのです（加えて、長い距離を歩き通す満足感と山小屋で待っている冷たいビール。この辺がヤミツキになる原因でしょう）。

鳥の種類は少ないけれど、魅力は大きい高山のバードウォッチング。その一部をちょっ



クルマユリ

と、文章で再現してみましょう。

夏鳥たちのコーラスに送られて**登山口**を出発してから、もう、ずいぶん登りました。あたりは、ほの暗い針葉樹林。ザックの重さが肩にこたえてくるころです。にぎやかだった鳥の声もいつしか途絶え、時折聞こえて来るのは、カラ類のおしゃべりとセンダイムシクイの「焼耐いっばいグイー」。そういえば、喉も渇いてきました。ひと休みして、こちらもいっばいグイー、といっても焼耐ではなく、登山口の水場で汲んできたアルプスの雪解け水。小休止に飲む一杯の水、これは最高の美味のひとつでしょう。喉をうるおしていると、頭上でガーガー、というしわがれ声。ホシガラスの登場で、高山の雰囲気グッと盛り上がってきました。どこからか、ルリビタキの美声も聞こえてきます。あまり人を恐れない若鳥が、すぐ目の前の小枝に姿を見せてくれました。

ルリビタキにはげまされ、**山頂へ歩**をすすめます。周囲の木々の背丈がだんだん低くなり、頭の上が明るくなってきました。クルマユリ、ハクサンフウロ、シナノキンバイなどの高山植物が目につくようになると、森林限界はもうすぐです。突然、天からふってきたのはヒバリの声？よく聴いてみると、時々、ズーズーという音はあります。ビンズイのさえずりでした。ちなみにビンズイという名前は、この鳴き声に由来するそうです。

お花畑とハイマツのあいだを縫うように続く登山道。ミヤマシシウドの花の上で、カヤクグリが、小さな美しい声で歌っています。ゆくてには山小屋の赤い屋根。その向こ

うには目指す山頂。さあ、もう少し、と歩いてゆくと、いきなりライチョウの登場。母鳥に連れられて、幼鳥が一羽、二羽、三羽……ハイマツのしげみから次々に現れたこの家族、何と登山道でお食事を始めたようです。目的地はすぐ目の前なのに、これでは前に進めません。ライチョウの通せんぼなら、まあ、いいや、こちらもお食事にしよう。道のわきの岩に腰をおろし、お弁当を広げていると、今度はイワヒバリの登場。すぐ足元まで寄ってきます（注2）。

百花繚乱のお花畑で、トリとニンゲンが仲良くお食事。これは、自然を愛する人たちの理想の風景ではないでしょうか。この理想の風景が、高い山には実在するのです。そしてまた、この風景を見たくて、毎年のように山へ出かけてゆくのです。

山登りの経験がなくても高山の鳥が楽しめるコースをいくつか、挙げてみましょう。

〈立山、室堂周辺〉

JR大糸線信濃大町駅またはJR北陸本線富山駅から、バス、ケーブルカー、ロープウェイなどを乗り継いで、標高2445mの室堂ターミナルへ。ここはもう、お花畑のまんなか。室堂の周辺はアップダウンがほとんど無く、気軽に高山の散策を楽しめます。見られる鳥はイワヒバリ、カヤクグリ、そしてライチョウ。ライチョウの生息密度は日本アルプスのなかでは最も高い、と言われてています。

〈富士山五合目から御庭、奥庭〉

富士急行河口湖駅からバスで五合目へ向かいます。着いたところは、山の雰囲気とはほど遠い大駐車場ですが、ここにもホシガラスが出現するので要注意。五合目からお中道をたどって、御庭、奥庭へ。このコースではイワヒバリ、カヤクグリ、ルリビタキ、ウソ、キクイタダキなどが見られます。ただしライチョウはいません。日帰りもできますが、五合目や奥庭の山小屋に一泊して、ゆっくりと山を楽しむことをお勧めします。



北アルプス八方池から白馬三山を望む

〈白馬大雪渓から白馬岳〉

JR大糸線白馬駅から登山口の猿倉までバスで約40分。2時間以上にわたる雪渓歩きをクリアすれば、後はお花畑の連続。無数の高山植物が咲き乱れる中で、ライチョウと出会えます。山頂付近の山小屋で一泊し、翌日、榊池自然園へ下山。このコースは、体力があって、足と心臓に自信のある方向き。アルプスの登山コースの中では初級者向きとされていますが、まったく登山経験のない人ばかりで行くのは、ちょっと考えもの。できれば山に詳しい人にリーダーとして同行してもらいましょう。専門のガイドを頼むこともできます（山岳関係の雑誌をご覧ください）。

比較的簡単に山の鳥を楽しめるコースをいくつか紹介しましたが、いくら簡単に行けても、高山は高山。たいへん厳しい自然環境である、ということを忘れないでください。無理のないコースを無理のないスケジュールで。防寒や非常食などの装備を十分に。そして、何よりも「健康」であることが大切です。

注1：一部は低地に移動するようですが、少なくとも私は、亜高山帯以外でこの鳥に会ったことはありません。

注2：そばに寄ってくるイワヒバリに、お菓子などをやっている人を見かけますが、これは厳禁。野生動物には、やたらにエサをやってはいけません。

参考

*アルペンガイド1「北アルプス」 山と溪谷社

*「東京付近の山」 実業之日本社

*「コンサイス鳥名事典」 三省堂

1994年春 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

日時：1994年4月29日

- * 9:30～11:30 大久保農耕地
- * 15:20～16:20 入間川
- * 9:30～13:00 利根川

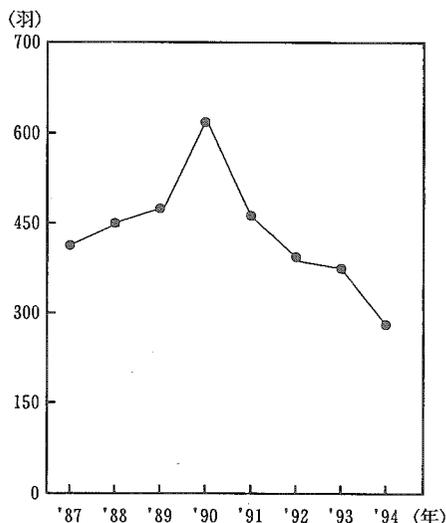
天候：晴れ

4月29日に埼玉県内のシギ・チドリ類の一斉調査が行われました。この日は低気圧が南岸沖を通過したため、少し風はあったもののまずまずの天気となり、支部会員26名のご協力が得られました。

観察された鳥類・個体数は15種373羽で、昨年の春と比較すると種数は同じですが、個体数で299羽少なくなっています。これは、大久保農耕地でムナグロが104羽、利根川でハマシギが135羽少なくなっていることが大きな原因です。

グラフは春のカウント結果のうち、大久保農耕地におけるムナグロの個体数をまとめたものです。
(石井 智)

大久保農耕地におけるムナグロの個体数



1994年春 シギ・チドリ類調査結果

調 査 地	大久保農耕地 浦和市/大宮市			入間川:狭山市 (豊水橋～新富士見橋)			利根川:本庄市 (阪東大橋下流)		
	'92年	'93年	'94年	'92年	'93年	'94年	'92年	'93年	'94年
鳥 類									
コチドリ	4	—	—	2	1	1	記 録 な し	16	11
イカルチドリ	—	—	—	3	1	—		8	4
シロチドリ	—	—	—	—	—	—		14	8
メダイチドリ	—	—	—	—	—	—		1	—
ムナグロ	386	381	277	—	—	—		1	—
ダイゼン	—	—	—	—	—	—		1	—
キョウジョシギ	—	—	2	—	—	—		—	—
トウネン	—	—	—	—	—	—		1	—
ウズラシギ	1	—	—	—	—	—		—	—
ハマシギ	—	24	1	41	6	—		138	3
アオアシシギ	1	7	3	—	—	—		2	—
クサシギ	—	—	—	—	—	—		2	1
タカブシギ	6	6	13	—	—	—		—	—
イソシギ	—	—	—	7	6	—		17	9
チュウシャクシギ	1	13	12	—	—	—		—	3
タシギ	36	21	10	—	—	—		3	—
ジシギSP.	3	2	1	—	—	—		—	—
アカエリヒレアシギ	—	—	—	—	—	—		—	9
ツバメチドリ	—	—	—	—	—	—		—	5
シギSP.	5	—	—	—	—	—		—	—
個 体 数 合 計	443	454	319	53	14	1	204	53	
種 数 合 計	9	7	8	4	4	1	12	9	

シジュウカラ日記顛末

海老原美夫 (浦和市)

5月9日(月)から31日(火)までの日曜を除く毎朝7時40分ころ、『新緑シジュウカラ日記』がNHKから放送された。

■それは突然始まった■

3月14日(月)仏滅の日に1本の電話。NHK浦和局から、「おはようオオタカ」「谷津干潟水鳥ウォッチング」に続き、5月中に放送する定点カメラの企画の相談に乗ってほしいとの事。オオタカに代わる適当な鳥は思いつかないし、埼玉には谷津干潟もない。ま、この話はなんだね、と思いながら会ってみると、元アナウンサーの上安平冽子さん、その熱心さに押されて、こちらもついまじめになってしまった。

■企画いろいろ考えて■

要するに、毎朝2～3分間の放送時間中に定点カメラで映像が送れるかどうか。水場でも、朝のその限られた時間内に鳥がいる確率が高いとは言えない。冬であれば餌台も考えられるが、時期的に無理。できれば巣の撮影はしたくないけれど、そうなっちゃうのかな。とすれば、何がいいだろう。

ツミヤアオバズクは6月に入らないとだめ。コゲラの穴掘りなんかおもしろいけど、掘り終って抱卵に入ったら、外からは何にも見えなくなってしまう。

ああだこうだと、結局残ったのが、武蔵野線新三郷駅の鉄橋に営巣するチョウゲンボウか、巣箱内のシジュウカラの2案。

チョウゲンボウは、影響を与えないでの連続撮影が難しく、あっさり断念。5月18日(水)朝「よみがえる自然」シリーズの中の単発現場中継にまわして、定点カメラはシジュウカラに決定。巣箱のシジュウカラなら、「巣の撮影」に対する抵抗感も少ないしと、シジュウカラに決まるまでも、いろいろすったもんだがあったのだ。

■巣箱をかけても■

秩父愛鳥会の宮崎章次会長に急ぎ調達して



もらった巣箱5個と、NHK浦和の若い技術スタッフがカメラを仕掛けやすいように新たに作った巣箱3個を、秋ヶ瀬公園にかけたのが、4月7日(木)。巣箱に慣れて、巣材を運び始めるのが何日くらい、卵を産み始めるのが…というこちらの計算を無視し、シジュウカラたちの巣箱利用ペースは早すぎて、驚かされた。わっわわっ、どうしよう……

今度はどの巣箱を本命にするか、NHK技術スタッフと私の戦いが始まった。彼らは、カメラを仕掛けやすいように作った巣箱にしたいし、私は「5月いっぱい」という放送時間に最も合いそうな箱を強く主張する。結局私の主張で押しきっちゃったのだけれど、本当にそれでいいのかどうか、自分でもたいして自信がなかったのに、ああ、おそろしい。

■なんとか放送が終わっても■

解説者のもたもたぶりに比べて、主役のシジュウカラたちはたくましかった。雛たちはぐいぐい大きくなり、スズメが闖入する場面もあり、鳥たちの役者ぶりにはしっかりと負けてしまった。

それにしても、あらためてシジュウカラの事を調べてみて、意外と分からない事が多いのに気がついた。例えば卵は1日1個ずつ産むというがそうではない巣箱もあったし、抱卵開始時期や巣立ちまでの日数なども、必ずしも本に書いてある通りではない。身近すぎて、もう分かったつもりになっていたシジュウカラの、意外な一面を知ることができたのが、この騒動で一番の収穫だった。

オシドリ ◇4月10日、名栗村の名栗湖で♂11羽♀6羽(有山智樹)。◇4月14日、狭山市の入間川、狭山大橋下流で♀1羽(岩淵茂雄)。

アメリカコガモ ◇3月13日、戸田市道満荒川第一調節池で♂1羽(有山智樹)。

トモエガモ ◇3月20日、浦和市の白幡沼で♀1羽。投げ釣りが行われていて、釣り糸が脚に引っかかり、リールが巻かれると水面上でかなり暴れた。自力で脱出したが、しばらくの間、興奮していた(有山智樹)。

オオタカ ◇2月28日、大宮市日進1丁目目で1羽(森本國夫)。

ツミ ◇4月20日、大宮市日進1丁目目で1羽鳴いていた(森本國夫)。

ノスリ ◇3月6日、秩父市美の山で1羽(山岸昭治)。

サシバ ◇4月17日、鴻巣市利根導水路の荒川落ち口付近の屋敷林で2羽(長島岩雄)。

ハヤブサ ◇3月15日、戸田市道満中の島の高圧線鉄塔で♀1羽。集まって来たハシブトガラスに対し警戒声を発する。そのうち手当たりしだいに本気でカラスを襲い始める。さすがのカラスの群れも逃げ出してしまった。(有山智樹)。◇4月24日、浦和市秋ヶ瀬のA区で1羽(細井要)。

チョウゲンボウ ◇3月22日、浦和市秋ヶ瀬道路の上空で♂1羽。なんと一時的にプロペラ回転飛行をした。すぐに通常飛行に戻り、そのまま一直線に降下していった(有山智樹)。

クイナ ◇3月29日、戸田市道満の釣り堀の浅瀬で1羽。のんびりと羽づくろいをしていた(有山智樹)。

コチドリ ◇3月3日、和光市下新倉の荒川第一調節池でシロチドリとともに夏羽1羽(有山智樹)。◇3月20日、大宮市三橋1丁目の鴨川、うちの橋下流干潟で1羽(浅見健一)。

ムナグロ ◇3月5日、大宮市三橋の鴨川第

一調節池で14羽。(浅見健一)。

ツルシギ ◇3月13日、戸田市道満荒川第一調節池で冬羽1羽(有山智樹)。

クサシギ ◇4月12日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で2羽(福井巨)。

ホウロクシギ ◇4月23日、川口市差間の調節池で1羽。24日、浦和市秋ヶ瀬のB区で1羽。同じ個体か?(鈴木啓紀)。

オオジシギ ◇3月29日、戸田市道満の釣り堀横で1羽(有山智樹)。◇4月10日、深谷市の利根川上武大橋下流で2羽(井上幹男)。

ユリカモメ ◇4月16日、大宮市三橋1丁目の鴨川で夏羽5羽。内1羽がドジョウをくわえ浅瀬に降りて飲み込む(浅見健一)。

セグロカモメ ◇3月5日、大宮市三橋の鴨川第一調節池で1羽。釣り堀に降下。小魚をくわえ飛び上がり、飛びながら上手にくわえ直し、飲み込む(浅見健一)。

カモメ ◇4月10日、深谷市の利根川上武大橋下流で1羽(井上幹男)。

コアジサシ ◇4月10日、深谷市の利根川上武大橋下流で3羽(井上幹男)。◇4月19日、幸手市外国府間の権現堂調節池で3羽(田畑孝)。

コミミズク ◇3月5日、戸田市下笹目の荒川河川敷で1羽。イヌビエ群落内に潜む(有山智樹)。

アマツバメ ◇4月13日、入間市の入間川豊水橋上流、笹井堰でヒメアマツバメの群れに混じって6羽(古澤紀)。

ヤマセミ ◇4月10日、名栗村の名栗湖で♀1羽(有山智樹)。

カワセミ ◇3月29日、戸田市道満の釣り堀の木道脇で♂1羽。造巢中(有山智樹)。◇4月1日、浦和市の白幡沼で♂♀各1羽。3月頃から頻りに婚姻飛行が見られる(有山智樹)。

アオゲラ ◇3月19日、飯能市下畑、成木川付近の雑木林で♂♀各1羽。求愛行動をする(藤森三治・恵美子)。

ハクセキレイ(ねぐら) ◇3月28日～、浦和市桜田2丁目の新大宮バイパス沿いの看板上とその隣の電柱、電線上にねぐらをと

っていた(福井亘)。◇4月11日夕方、北本市深井の交差点近くの電線上に約50羽の群れがとまっていた。(内藤洋子)。

ビンズイ ◇4月12日、大宮市日進1丁目
3羽(森本國夫)。

モズ ◇3月9日、飯能市下畑、成木川付近の雑木林で♂♀各1羽。求愛行動をする(藤森三治・恵美子)。◇4月4日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森でさえずり。オオジシギの鳴きまねをする(福井亘)。

トラツグミ ◇3月18日、浦和市秋ヶ瀬の野鳥園で1羽(有山智樹)。◇4月12日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で1羽(福井亘)。

アカハラ ◇3月15日、戸田市道満の釣り堀横の林で♂1羽(有山智樹)。◇3月22日、浦和市秋ヶ瀬の野鳥園で♂1羽(有山智樹)。◇4月4日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森でさえずる(福井亘)。◇4月6日、熊谷市大麻生の野鳥の森でさえずる(菱沼一充)。

シロハラ ◇3月25日、浦和市秋ヶ瀬の東京農大グラウンド脇のハンノキ林で♂1羽(有山智樹)。◇4月1日、大宮市日進1丁目
で1羽(森本國夫)。◇4月16日、戸田市道満の釣り堀横の林で1羽(有山智樹)。

ツグミ ◇4月6日、熊谷市大麻生の野鳥の森で「チチッ、キョロロ」とさえずる(菱沼一充)。

オオルリ ◇4月23日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で♂1羽。朗らかにさえずる(新堂克浩)。

センダイムシクイ ◇4月22日、大宮市日進1丁目
で1羽(森本國夫)。

ツリスガラ ◇3月7日、浦和市秋ヶ瀬の荒川河川敷で12羽。1羽に標識リングがつい



(コマドリ 森野 洋一郎)

ていた。14日にも同所で同数観察する(有山智樹)。◇4月25日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で2羽(高橋達也)。

コジュリン ◇3月5日、戸田市下笹目の荒川河川敷で♀3羽。イヌビエの種子を好んで食べていた(有山智樹)。

オオジュリン ◇3月30日 戸田市道満荒川第一調節池西側のイヌビエ群落で完全な夏羽の♂1羽(有山智樹)。

イカル ◇3月6日、秩父市美の山で多数(山岸昭治)。◇4月13日、入間市の入間川豊水上流、笹井堰で2羽。枝先の新芽を逆さにぶら下がってつばむ。(古澤紀)。

ニューナイスズメ ◇4月6日、熊谷市大麻生の野鳥の森で♂2羽♀3羽。10日には、同所で約50羽(菱沼一充)。

コムクドリ ◇4月17日、深谷市の利根川上武大橋下流で♂1羽(井上幹男)。◇4月24日、戸田市道満釣り堀横の林で♂2羽(高橋達也)。

カケス ◇4月6日、熊谷市大麻生の野鳥の森で16羽(菱沼一充)。◇4月10日、深谷市の利根川上武大橋下流で15羽(井上幹男)。

表紙の写真

ネイチャーフォトコンテスト 1993 入選作

キジ (キジ科)

後ろの雑木林で異様な雰囲気。下生えの中を、キジの親子が移動中なのだ。

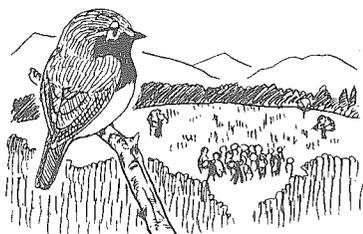
こちらの動きに気づいて、警戒態勢に入った。草株の陰で、母親の両翼に抱えられて、沈黙。

そのうち、背から、胸から、翼の下から、興味深げな、いくつもの目が覗く。

「お母さん、アレ誰？」

ネムの花が虹のように咲きほこる、7月初め。
野川一臣 (大宮市)

行事あんない



(渡辺 敦)

上尾市・八枝神社探鳥会 (夕方)

期日：7月3日(日)

アオバズクを観察する催しです。詳しくは6月号9頁を御覧ください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：7月10日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車

担当：菱沼(一)、森本、関口、菱沼(洋)、斉藤、根岸、中島(章)、小池、和田、石井(博)

見どころ：うっとおしい梅雨、家の中のごろごろしていてもよけいに暑いだけです。少しでも青空が見えたなら、探鳥会にでかけましょう。この夏に生れたヒナ達がきっとあなたを待っていてくれます。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：7月17日(日)

集合：午前10時 森林公園南口駐車場

交通：東武東上線森林公園駅より森林公園南口行き9:43発バスに乗り、終点下車

費用：入園料390円(小人80円)

担当：佐久間、榎本、岡安、内藤、長谷部、小淵、渡辺(光)、中村(治)、神場

協力：武蔵丘陵森林公園の自然を考える会
岡島、本木、谷津

見どころ：一応探鳥会ですが、実はこの季節は鳥が少なく見えにくいので、オオム

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日。参加費は一般100円。会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時ごろになります。

◇はじめて探鳥会に参加される方へ◇

集合場所へ着いたら、まず“日本野鳥の会埼玉県支部”の旗か、青い腕章をつけた担当者を探して、遠慮なく声をおかけ下さい。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

ラサキやトンボ、スズメバチを見たり、花を見たり。のんびり過ごして、事よったら探蝶会。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：7月17日(日)

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口(集合後、バスで現地へ)または、午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、渡辺(周)、手塚、笠原、伊藤、田口、岡部、嶋田、倉林

見どころ：2年前に、100回記念を暑い夏の日に行なったと思ったら、もう124回になってしまった。鳥も「暑い暑い」と言っているが、やはり、むんむんと青草の匂う三室に私はやって来るのだ。アシの葉陰に鳥影を追って!



(アゲハ 林 滋)

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：7月24日（日）

集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口

交通：西武新宿線所沢8:45発、本川越8:43発
に乗車、JR川越線大宮駅からは川越駅へ
下車、徒歩約10分で本川越駅へ

解散：正午頃、稲荷山公園

担当：長谷部、三田、石井（幸）、佐久間、柳原、小野、中村（祐）、山本

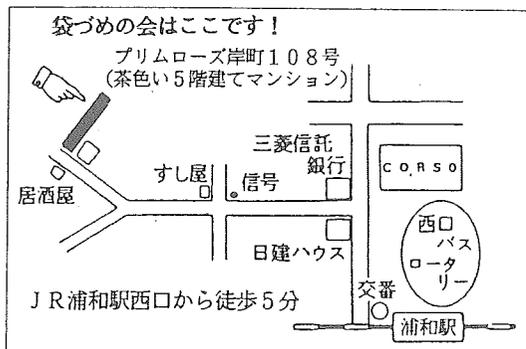
見どころ：鳥の少ない季節です。こういうときは身近な鳥たちをしっかりと観察。意外にも知っているようで知らない事があるものですヨ。コジュケイの雄と雌の違いは？ハクセキレイとセグロセキレイの幼鳥の識別、できる？

『しらこぼと』袋づめの会

期日：7月30日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

案内：支部会員も増勢が続いています。常連メンバーは手慣れた手つきで、宛名貼り、袋づめと黙々とこなしています。さすがですネ、でも人手は足りないのです。冷房完備、お茶菓子付き？是非お手伝いに来て下さい。『しらこぼと』は早く読めるし、気になる珍鳥情報を見やげに帰れるかも。



野鳥写真クラブ定例会

期日：7月30日（土）午後2時ごろ～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

案内：この暑いときフィールドにでかけても

鳥は少ないし、でもウォッチングを楽しみたいとぜいたくをいっているあなたに、ピッタリのスポットがここです。スライド、ビデオのストックが沢山！冷房完備で高原の気分が居ながらにして楽しめ、探鳥気分満喫です。何回でも出現しますので学習効果もバッチリ！これがフィールドで役立つんです。研究熱心なあなた忘れず来てネ……。



(神場 真文)

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：8月7日（日）

集合：午前8時40分 北本自然観察公園駐車場または、午前8時15分JR高崎線北本駅改札口、(集合後、タクシーで現地へ) リーダーの指示により分乗して下さい。

担当：岡安、榎本、内藤、吉原、関口、永野(安)、永野(京)、渡辺(光)

見どころ：暑いけれどフィールドで汗をかき疲れたら木陰で休憩し汗をぬぐう。これが一番の健康法。カッコウやカワセミがきっと涼風を運んできてくれる。今年育った若鳥との出会いも楽しみにしてお出かけ下さい。

リーダーからのお願い

7月・8月は暑いさなかの探鳥会が続きます。炎天下を歩くことも少なくありません。元気な皆さんといえども、油断は禁物です。必ず日よけ(帽子)と飲物(水筒)を出かけるときは忘れずに！

行事報告

3月13日(日) 川越市 西川越
参加: 28人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ チョウゲンボウ コジュケイ キジ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 待合わせ中に早くもチョウゲンボウが頭上近くを舞った。河原では、水辺の鳥たちをじっくりと見て、コースの帰りには、カワセミ2羽が交互にダイビングするのを時間がオーバーするくらい見てしまった。(佐久間博文)

3月20日(日) 浦和市 三室地区
参加: 51人 天気: 曇

カワウ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ キンクロハジロ バン コジュケイ ハマシギ タカブシギ イソシギ タシギ ユリカモメ キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 今日、郷土博物館主催の浦和市民探鳥会がありました。新しい企画として、市民探鳥会の参加者と一緒に(一部別コースを)歩き、鳥見をしました。市民探鳥会の参加者の感動が乗り移って、非常に楽しい、初心に戻った探鳥会でした。

(楠見邦博)

3月21日(月、休) 秩父市 羊山公園
参加: 74人 天気: 晴

ハイタカ コジュケイ キジバト アカゲラ コゲラ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス キクイタダキ

エナガ コガラ ヒガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ カワラヒワ ベニマシコ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) 上空を舞うハイタカ。やぶかげにひらめくルリビタキ。こずえでしばらくポーズのベニマシコ♀。水辺でえさ探しに忙しいシロハラ。今年も、見られた人と見られなかった人、運の良い人悪い人、いろいろいたけれども、みんなそろって楽しめたのは、心地よい秩父の一日。(海老原美夫)

3月26日(土) 浦和市 見沼ヘルシーロード
参加: 29人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コガモ オナガガモ オオタカ ユリカモメ シラコバト キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) やっぱいい天気の見沼ヘルシーロード探鳥会。早春のすがすがしい朝の空気の中、綻び始めたたくさんの草花や木々、おまけ?に多くの鳥たちに会うことができた。途中早退した私は、午後しっかり仕事。人生楽あれば苦ありか……。 (伊藤芳晴)

3月26日(土) 『しらこぼと』袋づめの会
ボランティア: 10人

赤塚義正、荒木恒夫、海老原教子、海老原美夫、遠藤 薫、神場真文、小林孝太郎、中村 治、藤野富代、谷津弘子

3月27日(日) 狭山市 入間川
参加: 29人 天気: 快晴

カイツブリ、コサギ カルガモ コガモ オナガガモ キンクロハジロ トビ オオタカ キジコチドリ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ アオゲラ コゲラ ヒバリ ツバメ

キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) ウグイスのさえずりで探鳥会スタート。天気はいいが、冷たい風が吹いている。例年なら入間川上空を飛び回っているはずのイワツバメは見られず、ツバメも数人が見ただけ。異常気象が続いて、鳥たちの生活も混乱しているのか。稲荷山公園では、シロハラ、続いてオオタカが登場。鳥合わせ直後にアオゲラが鳴いて、一応探鳥会出席に。(長谷部謙二)

4月3日(日) 川口市 差間

参加: 26人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ チョウゲンボウ コチドリ ユリカモメ シラコバト キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ツグミ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (23種) 空は快晴。桃の花が満開。桜も3分から5分咲き。でも、この日は北からの強風が吹いていた。じっくり見られたのはコチドリだけで、ツバメもカシラダカもみんなあつという間に風に流され、視界から遠のいていく。途中、一段と風が強くなってきたので、早々に引き揚げた。(手塚正義)

4月10日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 52人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ マガモ カルガモ トビ オオタカ チョウゲンボウ コジュケイ キジ コチドリ イカルチドリ イソシギ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス キクイタダキ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ニュウナイスズメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 歩け歩け運動の人たちと一緒にあって、駅前が大混雑! 隅に追いやられる感じ。しかし、天気は上々で桜も満開。土手の上でSLを見送るのもいいもんだ。野鳥の森の上を、沢山のカケスが飛ぶ。お目当てのニュウナイスズメも、去年と同じ場所で見られ、ほっと一安心。河原では、すっかり夏羽になったタヒバリも。(菱沼一充)

4月17日(日) 浦和市 三室地区

参加: 66人 天気: 快晴

カイツブリ コサギ カルガモ コガモ オナガ ガモ バン チョウゲンボウ コジュケイ キジ コチドリ タカブシギ タシギ ユリカモメ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ シロハラ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 春。新学期で、例年のように参加者が多かった。小学校の4年生から参加していたI君が、大学生になって帰ってきた。三室の探鳥会も年輪を重ねたものだ。花、花、見沼たんぼに春がやってきて、花と鳥、緑の楽しい鳥見だった。(楠見邦博)

4月29日(金、休) シギ・チドリ類調査

ボランティア: 26人

阿部やす子、荒木恒夫、有山智樹、飯塚俊一、石井 智、井難志げ子、海老原教子、海老原美夫、小川祐一、倉林宗太郎、小島 健、小林孝太郎、佐久間博文、佐藤 進、篠原東彦、新堂克浩、鈴木博志、高松 格、竹内設雄、立岩恒久、甘楽順一、服部則子、福井恒人、福井 亘、町田好一郎、三田長久 ♪♪♪♪♪♪♪♪ 御苦労様でした。

4月30日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 16人

赤塚義正、荒木恒夫、石井幸男、岩上照代、海老原教子、海老原美夫、小林孝太郎、篠原東彦、諸徳寺四郎、墨江光子、中村 治、安原久子、谷津弘子、渡辺喜八郎、渡辺浩平、渡辺光行

4月30日(土) 行田市 さきたま古墳公園

参加: 28人 天気: 晴

コサギ カルガモ ハイタカ コジュケイ コチドリ イソシギ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ オオヨシキリ セッカ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (21種) 参加者が少ないのも約5km歩いたため。武蔵水路と交差する元荒川の瀬で、思いがけぬコチドリとイソシギに満足。かご抜けだけど新幹線ガード下にてハッカチョウを全員が見ることができた。最後は、ハイタカが舞ってしめくった。オツカレサマ! (内藤義雄)

連絡 中長

●大麻生 100回記念ワッペン発売中

菱沼一充幹事がカケスをデザインしました。数に限りがあります。三室や大麻生の探鳥会でお求めください。税込み 618円。

●あいつぐ巢立ち雛誘拐事件

今年も、「雛が落ちていたので保護しました」という電話が、殺到しています。「親がいたはずですから、なるべく早く元に戻してやってください」とお話しれば、「野鳥の会なのに、面倒見ないのか」としかられたり、10分、20分と時間がかかる事もしばしば。事務局2人が、どっと疲れる季節です。

- ①巢立ち雛は、拾って来ないでそのままに。
- ②怪我をしたり、弱っていたら、傷病野生鳥獣保護診療機関に。

草加	浜坂動物病院	0489-24-7446
春日部	森田一獣医科病院	048-735-0532
川口	池谷犬猫鳥の病院	048-266-6611
浦和	バードクリニック	048-822-1759
大宮	エンゼル動物病院	048-663-2300
上尾	川口ペットクリニック	048-781-2257
桶川	ナカムラペット病院	048-771-7970
熊谷	坂本動物病院	0485-21-2771
	籠原獣医科医院	0485-32-1663
	川田動物病院	0485-25-2284
	あらい犬猫鳥の病院	0485-25-5282
深谷	田坂どうぶつ病院	0485-71-0508
	アリアルクリニック こばやし	0485-73-1906
志木	嵯峨獣医科クリニック	0484-71-3567
所沢	所沢愛犬病院	0429-22-2929
東松山	大山獣医科病院	0493-24-2248
秩父	浅見獣医科医院	0494-22-1176
③密猟対策や不法飼育、そのほかいろいろな相談は、次のところをお願いします。		
県庁野生生物係	048-824-2111内線2424	
東部環境管理事務所	0480-34-4011	
中央環境管理事務所	048-822-5199	
北部環境管理事務所	0485-23-2801	
西部環境管理事務所	0492-44-1250	
秩父環境管理事務所	0494-23-2111	

●三菱信託銀行大宮支店でロビー展

5月9日～31日、「身近で見られる野鳥」をテーマに、支部フォトコンテスト1993入選作から20点を選び、展示しました。

●バードソン1994をよろしく

野鳥保護基金の充実を目標に、11月13日(日)に開催されます。昨年から出場チームを目指す動きもありますが、さて。出場する人、支援する人、募金する人、それぞれの立場で、1994もよろしく。

●7月の土曜日当番(2時～6時)

- 2日 三田長久 阿久澤キクエ
- 9日 長谷部謙二 和田康男
- 16日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)
- 23日 立岩恒久 永野京子(校正の日)
- 30日 袋づめの会(1時から)

●会員数は

6月1日現在 2,434人です。

活動報告

- 5月14日 編集会議。6月号入稿。
- 5月19日 テレビ埼玉6月放映収録。
- 5月21日 6月号校正作業(海老原美夫・中村榮男)。同日 テレビ埼玉にPR用6月行事案内FAX。
- 5月22日 役員会議(司会・林慎一、総会準備・決算予算案・その他)。『見て歩き』第5回編集会議。

編集後記

編集後記を書き始めたのに、まだ特集の原稿が届かない。印刷所に渡す時刻も迫って来た。早く来い来いと、FAXを拝む。…次回の編集会議のときの土産は何だろう。ね、Mさん♥ (山部)
考えてみると、ずいぶんいろいろあったけど、毎月一度も欠けることなく123号にもなっている。たいしたものだと思う。もう何も怖くないのだ。(海老原)

『しらこぼと』1994年7月号(第123号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 東京9-121130
印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)

再生紙使用